
ANA VISION 2010

第61期 第1四半期のご報告

(2010年4月1日～ 2010年6月30日)

ANAグループは、経営計画を確実に遂行しています

株主の皆様におかれましては、益々ご清祥のことと、お慶び申し上げます。

さて、2011年3月期第1四半期は、前年同期と比較して収益は大きく改善し、営業利益が黒字に転換いたしました。

国内線旅客事業では、割引系運賃による競争激化の影響等により、単価は前年同期を下回りましたが、旅客数が前年同期比105.9%と増加した結果、48億円の増収となりました。

国際線旅客事業は、アイスランドの火山噴火やタイの政情不安といった影響を受けましたが、ビジネス・旅行需要ともに回復を見せ、旅客数、単価とも前年同期比で二ケタ台の伸びとなりました。特に北米線、中国線の旅客数の伸びが顕著であり、営業収入は202億円の増収となりました。

貨物事業については、国際線貨物で中国・アジア路線を中心に大きく輸送量を伸ばし、営業収入は97億円の増収となりました。

ANAグループは現在、グループを挙げて収入の安定化と生産性向上、コスト削減に向けた諸施策を断行しております。これまでのところ、業績はほぼ順調に推移していますが、海外における景気減退懸念や円高の進行によるわが国企業業績への影響

など、経営環境は依然楽観できない状況にあります。このような状況下で引き続き、今春発表した「ANAグループ2010-11年度経営戦略」を確実に実行し、経営基盤の強化を図り、気を緩めずに邁進していく所存です。

10月の羽田空港容量拡張を目前に控え、さらに厳しさを増す競争環境の中、安全性、サービス、品質の維持向上を柱に、2011年3月期の黒字化達成に向け、私自らANAグループ全役職員の手綱を締めてまいります。

株主の皆様におかれましては、変わらぬご愛顧とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。



2010年9月

代表取締役社長 伊東 信一郎

連結業績ハイライト

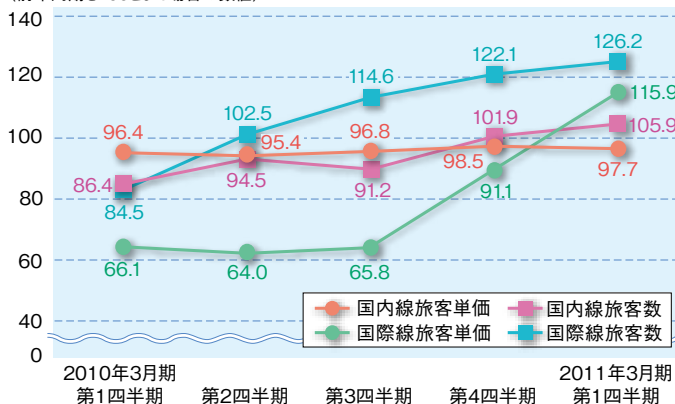
2010年4月1日～2010年6月30日

需要の本格回復に加え、費用削減も計画通り進み、営業黒字を確保

- 国際線を中心とした航空需要の本格回復により、営業収入は3,068億円(前年同期比113.7%)となりました。
- 費用削減対策を計画通り実施した結果、営業費用は3,038億円(同97.3%)となり、営業損益は前年同期より453億円改善し、29億円の営業黒字を確保しました。
- 経常損失は29億円、四半期純損失は52億円となりました。

旅客数と単価の四半期推移(前年同期比)

(前年同期を100とした場合の数値)



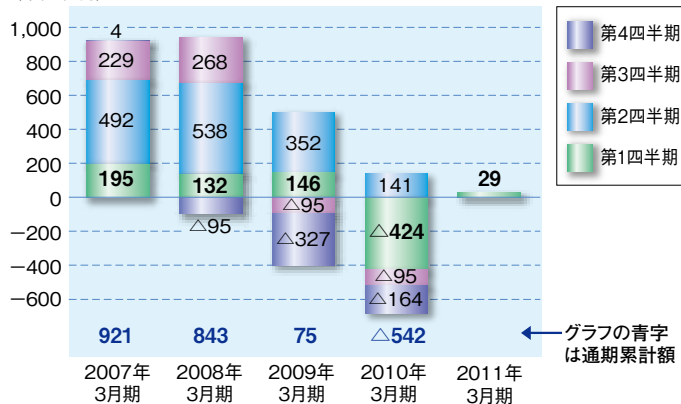
経営成績

(単位: 億円)

	前第1 四半期	当第1 四半期	増減	前年同期比 (%)
営業収入	2,698	3,068	369	113.7
営業費用	3,123	3,038	△ 84	97.3
営業利益又は損失(△)	△ 424	29	453	—
営業外損益	△ 70	△ 59	10	—
経常損失(△)	△ 494	△ 29	464	—
特別損益	14	△ 23	△ 37	—
四半期純損失(△)	△ 292	△ 52	239	—

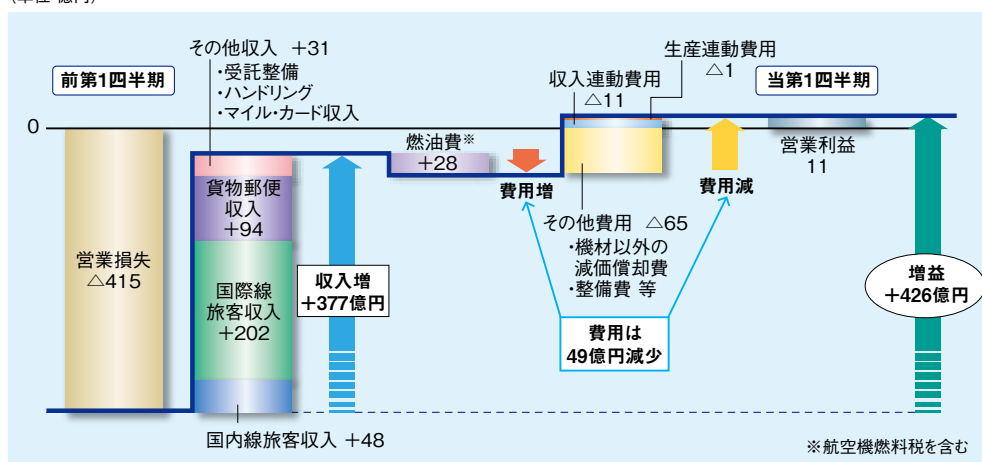
四半期ごとの営業損益の推移

(単位: 億円)



航空運送事業の営業利益増益要因(前年同期との比較)

(単位: 億円)



- 国内線旅客は厳しい競争環境により単価が下落したものの旅客数が増加し、国際線旅客・貨物はビジネス需要や荷動きが回復し、単価が改善してきたことなどから、営業収入は前年同期より377億円の増収となりました。

- 費用面ではコスト構造改革を計画通りに実行し、燃油費が28億円増加しましたが、総額では49億円減少したことから、営業損益は426億円の増益となりました。

連結貸借対照表

(単位 億円)

	前期末 2010年 3月31日現在	当第1四半期末 2010年 6月30日現在		前期末 2010年 3月31日現在	当第1四半期末 2010年 6月30日現在
A 資産の部			B 負債の部		
流動資産	4,215	5,193	流動負債	4,726	5,117
固定資産	14,367	14,560	固定負債	9,063	10,028
繰延資産	8	8	(有利子負債)	(9,416)	(10,336)
			負債合計	13,789	15,146
			C 純資産の部		
			株主資本	4,855	4,874
			評価・換算差額等	△ 119	△ 322
			少数株主持分	65	64
			純資産合計	4,800	4,616
資産合計	18,590	19,762	負債純資産合計	18,590	19,762

A 資産の部

流動資産は主に手元資金が増加して前期末より978億円、固定資産は航空機への投資等により同193億円それぞれ増加し、資産は同1,171億円増加しました。

B 負債の部

社債(200億円)発行や新規借入(1,000億円)により、有利子負債が前期末より919億円増加したことなどから、負債は同1,356億円増加しました。

C 純資産の部

円高の進行や燃油市況の下落傾向による繰延ヘッジ損益の悪化などにより、純資産は前期末より184億円減少しました。また、自己資本は同183億円減少し4,552億円となり、自己資本比率は23.0%となりました。

キャッシュ・フロー

- 営業活動によるキャッシュ・フローは、営業収支の改善により394億円の収入となりました。
- 投資活動によるキャッシュ・フローは、航空機の取得等の投資を継続したことなどにより、前年同期とほぼ同水準の892億円の支出となりました。この結果、フリー・キャッシュ・フローは497億円の支出となりました。
- 財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金の返済を進める一方、社債発行、新規借入により資金調達を行ったことにより、872億円の収入となりました。
- 以上の結果、当四半期末現金及び現金同等物残高は1,855億円となりました。

※金額、数量は表示単位未満の端数を切り捨てています。
※決算に関する資料は当社ホームページでもご覧になれます。

ANA 検索 → IR情報 → 決算・IR情報 → 決算短信

連結損益計算書

(単位 億円)

	前第1四半期 2009年4月1日から 2009年6月30日まで	当第1四半期 2010年4月1日から 2010年6月30日まで
営業収入	2,698	3,068
営業費用	3,123	3,038
営業利益又は損失(△)	△ 424	29
営業外収益	19	18
営業外費用	90	77
経常損失(△)	△ 494	△ 29
特別利益	17	0
特別損失	3	23
税金等調整前四半期純損失(△)	△ 480	△ 53
法人税等	△ 187	△ 0
少数株主損失(△)	△ 1	△ 0
四半期純損失(△)	△ 292	△ 52

セグメント別の営業収入

(単位 億円)

	前第1四半期 2009年4月1日から 2009年6月30日まで	当第1四半期 2010年4月1日から 2010年6月30日まで
航空運送事業	2,368	2,745
旅行事業	336	327
その他	338	341
営業収入計	3,043	3,414
セグメント間消去	△344	△345
連結営業収入合計	2,698	3,068

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位 億円)

	前第1四半期 2009年4月1日から 2009年6月30日まで	当第1四半期 2010年4月1日から 2010年6月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 85	394
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 888	△ 892
財務活動によるキャッシュ・フロー	960	872
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,420	1,855

セグメント情報

航空運送事業

● 国内線旅客

個人旅客需要が回復基調となりました。「スーパー旅割」の拡充や「乗継特割」の新規設定等による競争力の強化と潜在需要の喚起、高需要期における臨時便の設定や需給に合わせた機材投入などに努め、旅客数は前年同期比105.9%、収入は同103.5%に増加しました。

● 国際線旅客

ビジネス需要を中心に顕著な回復がみられました。需要が見込める路線で増便や機材の大型化などを実施したほか、中国人旅行者向けのキャンペーンを継続し、旅客数は前年同期比126.2%に増加しました。また、需要回復に伴い単価も改善した結果、収入は同146.2%に増加しました。

● 貨物

国内貨物は宅配貨物が低調に推移するなど、輸送重量は前年同期を下回り、収入は前年同期並みとなりました。国際貨物は荷動きが活発となっているアジア・中国路線を中心に需要の取り込みに努め、局所的な需要の発生に合わせ貨物臨時便を運航しました。国際貨物の輸送重量は前年同期比152.3%、収入は同194.5%に増加しました。

● その他

旅客の搭乗受付や手荷物搭載等の地上支援業務の受託などにより、収入は前年同期比109.2%に増加しました。

旅行事業

海外旅行ではアイスランドの火山噴火やタイの政情不安による影響があったものの取扱高は前年同期を上回りましたが、国内旅行では沖縄方面が伸び悩みました。その結果、全体の収入は前年同期比97.3%にとどまりました。しかしながら、販売費用などのコスト削減に努め、営業利益は6億円(前年同期は営業損失12億円)と黒字を確保しました。

その他

空港店舗を中心とした顧客サービス事業分野や航空機および機械事業分野が回復したことなどにより、収入は前年同期比100.7%、営業利益は10億円(前年同期より9億円増)となりました。

航空運送事業収入

(単位 億円)

		前第1四半期 2009年4月1日から 2009年6月30日まで	当第1四半期 2010年4月1日から 2010年6月30日まで	増減
航空運送事業	国内線	旅客収入	1,386	1,435
		貨物・郵便収入	85	84
		小計	1,471	1,519
	国際線	旅客収入	438	641
		貨物・郵便収入	112	207
		小計	550	849
	航空事業収入合計		2,022	2,368
	その他の収入		345	377
合計		2,368	2,745	377

(注)各収入はセグメント間の売上高を含んでおります。

輸送実績

		前第1四半期 2009年4月1日から 2009年6月30日まで	当第1四半期 2010年4月1日から 2010年6月30日まで	前年同期比 (%) 利用率はポイント
国内線	旅客数	(万人)	903	956
	座席キロ※1	(億席キロ)	143	136
	旅客キロ※2	(億人キロ)	79	83
	利用率※3	(%)	55.5	61.7
	有効貨物トンキロ※5	(百万トンキロ)	463	450
	貨物輸送重量	(千トン)	109	103
	貨物トンキロ※6	(百万トンキロ)	108	104
	郵便輸送重量	(千トン)	8	7
	郵便トンキロ	(百万トンキロ)	8	7
	貨物重量利用率※7	(%)	25.3	24.8
	△0.5			
国際線	旅客数	(万人)	97	122
	座席キロ※1	(億席キロ)	66	66
	旅客キロ※2	(億人キロ)	44	51
	利用率※3	(%)	66.7	76.9
	有効貨物トンキロ※5	(百万トンキロ)	658	698
	貨物輸送重量	(千トン)	86	132
	貨物トンキロ※6	(百万トンキロ)	388	485
	郵便輸送重量	(千トン)	5	5
	郵便トンキロ	(百万トンキロ)	26	25
	貨物重量利用率※7	(%)	63.1	73.1
	+10.0			

※1:座席キロ＝座席数×運航距離(キロメートル) ※2:旅客キロ＝旅客数×運航距離(キロメートル)
※3:利用率＝旅客キロ÷座席キロ ※4:国内線旅客数には、IBEXエアラインズ、北海道国際航空、スカイネットアジア航空、スターフライヤー、オリエンタルエアブリッジとのコードシェア便の実績(当社販売分)を含む。 ※5:有効貨物トンキロ＝有効(搭載可能)貨物重量(トン)×運航距離(キロメートル)。なお、旅客便については、床下貨物室(ベリー)の有効貨物重量に各区間距離を乗じた数値。床下貨物室の有効貨物重量には貨物、郵便のほか、搭乗旅客から預かる手荷物搭載の有効搭載重量を含む。 ※6:貨物トンキロ＝貨物輸送重量×運航距離(キロメートル) ※7:貨物重量利用率＝(貨物トンキロ÷郵便トンキロ)÷有効貨物トンキロ ※8:国内線貨物および国内線郵便の実績には、北海道国際航空、スカイネットアジア航空、オリエンタルエアブリッジとのコードシェア便の実績(当社販売分)を含む。 ※9:国際線貨物および国際線郵便の実績には、コードシェア便の実績(当社販売分)および地上輸送の実績を含む。 ※10:国内線深夜貨物定期便の実績を含む。 ※11:国内線、国際線ともに不定期チャーター便の実績を除く。



総会第1会場

グランドプリンスホテル新高輪「国際館パミール」(東京・港区)で6月21日、前年よりも1,102名多い過去最多の4,332名の株主様にご出席いただき、午前10時に開会しました。質疑応答の時間には18名の株主様よりご質問や貴重なご意見を承り、その後、「定款一部変更」「取締役17名選任」「監査役1名選任」の3議案が承認・可決され、午後12時32分に閉会しました。質疑応答の内容の一部をご報告いたします。

.....

Q: 業績悪化の最大の要因は、何だったのでしょうか。

A: 2009年度はリーマンショックの影響や、新型インフルエンザの発生といった非常に大きな減収要因が発生しました。特に国際線では、景気低迷に伴う出張中止や、ビジネスクラスにご搭乗されていたお客様がエコノミークラスに移るといったダウングレードが広がったことなどから、旅客単価が30%以上も下落しました。2011年3月期に入り、ビ

ジネス需要が復調し、旅客単価も大きく回復しておりますので、増収に向けて頑張っております。

Q: 取締役が17名必要な理由と妥当性について教えてください。

A: 航空会社は、整備部門や運航部門、空港部門などの専門性が高い業務が多いことに加え、競争が激化している中で勝ち抜いていくためには、経営の強化が必要であり、17名の取締役は最低限必要であると認識しております。

今後とも効率的な経営を追求していくことには変わりはありません。ご理解のほどお願いいたします。

Q: 第1号議案で発行可能株式総数を51億株とする理由を教えてください。

A: 2009年7月に公募増資を行い、発行済株式数は25億株を超えました。現在の発行可能株式総数は39億株であり、発行済株式数が発行可能枠の65%弱に達しており、環境が激しく変化する中で、柔軟で機動的な資本政策を遂行するには発行可能枠が不足する可能性が出てきました。当社はそうした事態に備え、発行済株式数のおよそ2倍の発行可能枠を保持すべきと考えており、その発行可能枠を保持するために本議案を上程しました。なお、現時点で具体的な増資計画を進めているものではございません。

Q: 社外役員の具体的な役割について教えてください。

A: 社外取締役は企業の活性化のために重要な役割を果たすものと認識しており、当社は創業以来50年以上にわ

たり、常に複数の社外取締役を選任してまいりました。候補者の選定に当たっては、その方々の見識や経験によって、当社の経営に大所高所から適切なアドバイスやご意見を頂けることを念頭に置き、就任をお願いしています。取締役会をはじめとして、いろいろな場面で発言や意見を頂いており、取締役会のガバナンスを確実に発揮させる役割を果たしていただいています。また、社外取締役とは別に独自に経営諮問委員会を設置して、各界を代表する方々や大学の先生など、社外の方に広範な視点からご意見を伺うように努めています。

Q: 2011年3月期の黒字化に向けた取り組みについて教えてください。

A: 予断を許さない経営環境の中で、組織のスリム化、人件費の削減、販売費用の削減などにANAグループ全体で取り組み、860億円のコスト削減を目指します。そして、増収策と合わせて1,000億円を超える収支改善を行い、最終黒字化の達成を実現します。ANAグループの役職員全員が、この厳しい環境下で全力で努力を続けており、必ず実現できるという強い決意を持っています。

Q: ボーイング787型機の導入スケジュールについて教えてください。

A: 2009年12月に1号機の初飛行を終え、その後は4機のテストフライト機が飛び続けています。当社とボーイング社との間では、計画の進捗状況について常時確認してお



会場受付

り、現在、計画は順調に進んでいます。本年中に1号機受領を目指して、引き続きボーイング社の開発状況を見守っているところです。

Q: 新幹線の延伸は、営業面でどのような影響があると考えていますか。

A: 新幹線は、大きな輸送力を持った快適な交通機関であると認識しています。青森、九州、北陸と次々に延伸される新幹線に対して、当社はさまざまな割引運賃やマイレージサービスにより、お客様のご利用を促進してきており、今後も航空の、そしてANAならではの長を出して頑張っていきたいと考えています。一方、新幹線あるいは鉄道会社とは、ライバル関係だけではなく、旅行需要喚起という点ではパートナーとしての側面があり、旅行商品の共同開発や各種キャンペーンの共同展開を実施してきました。今後も、戦うべきところは戦い、協力すべきところは協力し、日本全体の観光需要の喚起に努めていきたいと考えています。

頂戴したご意見などを参考にさせていただき、今後、より一層のサービス改善や業務効率化に取り組んでまいります。株主の皆様におかれましては、引き続きご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



展示・お問い合わせコーナー

2010年10月、進化した羽田空港がスタート!

4本目の滑走路の完成、新国際線旅客ターミナル開業、国際線定期便の就航、第2旅客ターミナルの拡張など、いよいよスタートする進化した羽田空港をご紹介します。

ANA
HANEDA 2010
風は世界へ。



新国際線旅客ターミナル 3階 出発ロビー チェックインカウンター

首都圏の新たな国際空港に変貌する羽田空港

本年10月、羽田空港待望の4本目の滑走路の運用が始まります。これにより羽田空港の発着容量は1.4倍になり、年間40.7万回に増加します(2011年3月までは33.1万回、漸次増加し2013年以降に40.7万回に増加)。

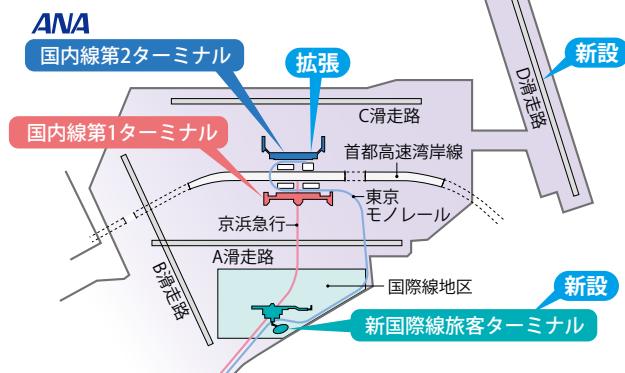
拡張に合わせ、新国際線旅客ターミナルが開業し、いよいよ羽田空港から国際線定期便が再び飛び立ちます。昼間時間帯(06:00~23:00)の発着可能回数は年間約3万回となり、近距離のアジア・中国などの路線へ就航します。そして、成田空港で離発着ができない深夜早朝時間帯(23:00~06:00)には、欧米や東南アジアなど世界の主要都市への国際旅客定期便が就航します。

一方、国内線も発着枠が年間29.4万回から31.1万回に

増加し、国内各地から羽田を結ぶ便数も増え、便利になります。

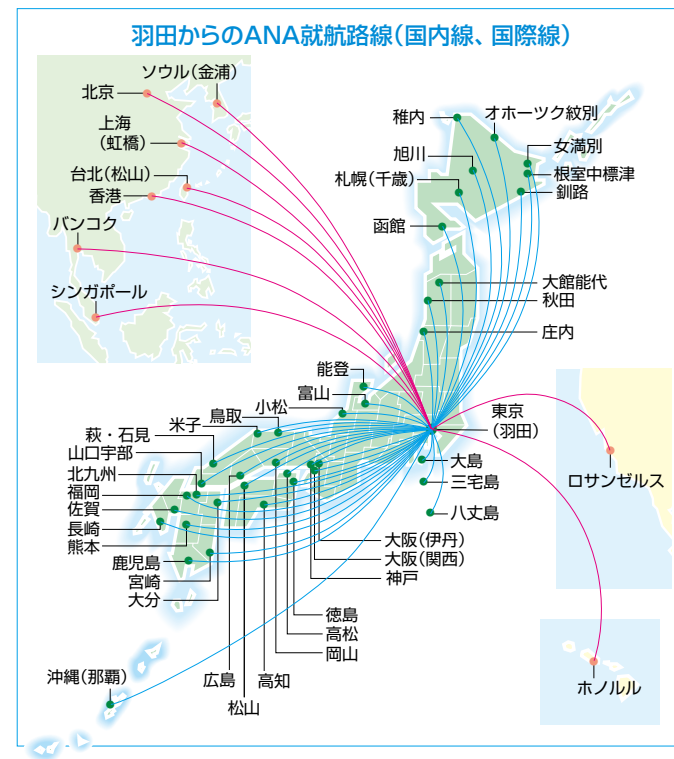
羽田空港は首都圏の新たな国際空港として、いよいよスタートを切ります。

羽田空港全体配置図



路線網の拡充を進めるANA

ANAは羽田空港からの路線網を順次拡充していきます。10月31日には、羽田・ロサンゼルス、ホノルル、シンガポール、バンコク、台北(松山)の国際線5路線と羽田・徳島線が加わり、国際線9路線、国内線39路線が就航します。



国内の全空港からANA国際線への乗り継ぎが簡単・便利に!

国内線からの乗り継ぎの利便性も、ANAだけで毎日約350便の国内線が発着する羽田空港ならではのものです。

国内の全空港※で、羽田空港から出発するANA国際線へのご搭乗手続き(スルーチェックイン)が可能となります。日本各地の搭乗地で海外の目的地までの搭乗手続きを行い、手荷物をお預けになれば、羽田空港での手続きが不要です。併せて国内線から国際線に乗り継ぐ場合の乗り継ぎ必要時間は現行の80分から70分へ短縮されます。

※北九州空港、香取空港を除くANA便が就航する空港

羽田空港でのANA便間の乗り継ぎ

乗り継ぎ	乗り継ぎ必要時間
国内線 → 国内線	25分以上
国内線 → 国際線	70分以上
国際線 → 国内線	80分以上
国際線 → 国際線	45分以上

羽田発の海外旅行商品も各種発売。海外がより身近となります!



新国際線旅客ターミナル外観

羽田空港から就航する国際線定期便スケジュール(2010年10月31日~2011年3月26日)

出発地		開設・変更	便 名	出発/到着時間	到着/出発地	便 名	出発/到着時間	到着地
羽 田	時間帯 深夜早朝	新規開設	NH1006	00:05 → 17:55 (前日) ※1	ロサンゼルス	NH1005	00:55 → 05:00 (翌日) ※2	羽 田
		新規開設	NH1062	00:30 → 12:40 (前日)	ホノルル	NH1061	18:15 → 22:30 (翌日)	
		新規開設	NH151	23:30 → 06:20 (翌日)	シンガポール	NH152	22:00 → 06:00 (翌日)	
		新規開設	NH173	00:30 → 06:00	バンコク	NH174	22:40 → 06:30 (翌日)	
	時間帯 昼間時間帯	新規開設	NH1185	09:40 → 12:45	台北(松山)	NH1186	13:45 → 17:40	
		新規開設	NH1187	12:40 → 15:45	台北(松山)	NH1188	16:45 → 20:40	
		大型化	NH1255	09:25 → 12:35	北京	NH1256	15:55 → 20:15	
		大型化	NH1259	10:25 → 12:50	上海(虹橋)	NH1260	14:05 → 17:40	
		昼間便化・大型化	NH1171	08:55 → 12:55	香港	NH1172	14:30 → 19:15	
			NH1161	08:55 → 11:25	ソウル(金浦)	NH1162	12:50 → 14:45	
		増便	NH1163	11:30 → 14:00	ソウル(金浦)	NH1164	16:35 → 18:30	
			NH1165	16:20 → 18:50	ソウル(金浦)	NH1166	20:20 → 22:15	

※1: 2010年11月8日~2011年3月13日 NH1006 羽田00:05→ロサンゼルス16:55(前日) ※2: 2010年11月8日~2011年3月13日 NH1005 ロサンゼルス00:10→羽田05:15(翌日)
●これらの計画は関係当局の認可を前提としております。●スケジュールの時間は現地時間です。●運航スケジュールならびに機材は予告なく変更となる場合がございます。

10月21日、 新国際線旅客ターミナルオープン

地上5階建て、延床面積159千㎡



①江戸小路(4階)：日本の伝統・文化を伝えるレストランやショップが並びます。



出発コンコース(3階)※：ブランドブティック、DUTY FREE SHOPが充実。チャネルも空港免税店として初出店。

②フードコート(4階)※：保安エリア内で24時間営業。深夜便、早朝便のご出発前にもご利用になります。



③国内線乗り継ぎカウンター(2階)：到着ロビーにあり、荷物も預けることができるので、移動は手ぶらでOK!

多機能トイレ：車いす使用の方、高齢者、オストメイト、幼児連れの方など、さまざまなお客様にご利用いただけます。



フロア配置図

※は保安エリアとなります。

5階

展望デッキ・カフェ・ショップ

4階

飲食店・物販店・ラウンジ

3階

出発ロビー

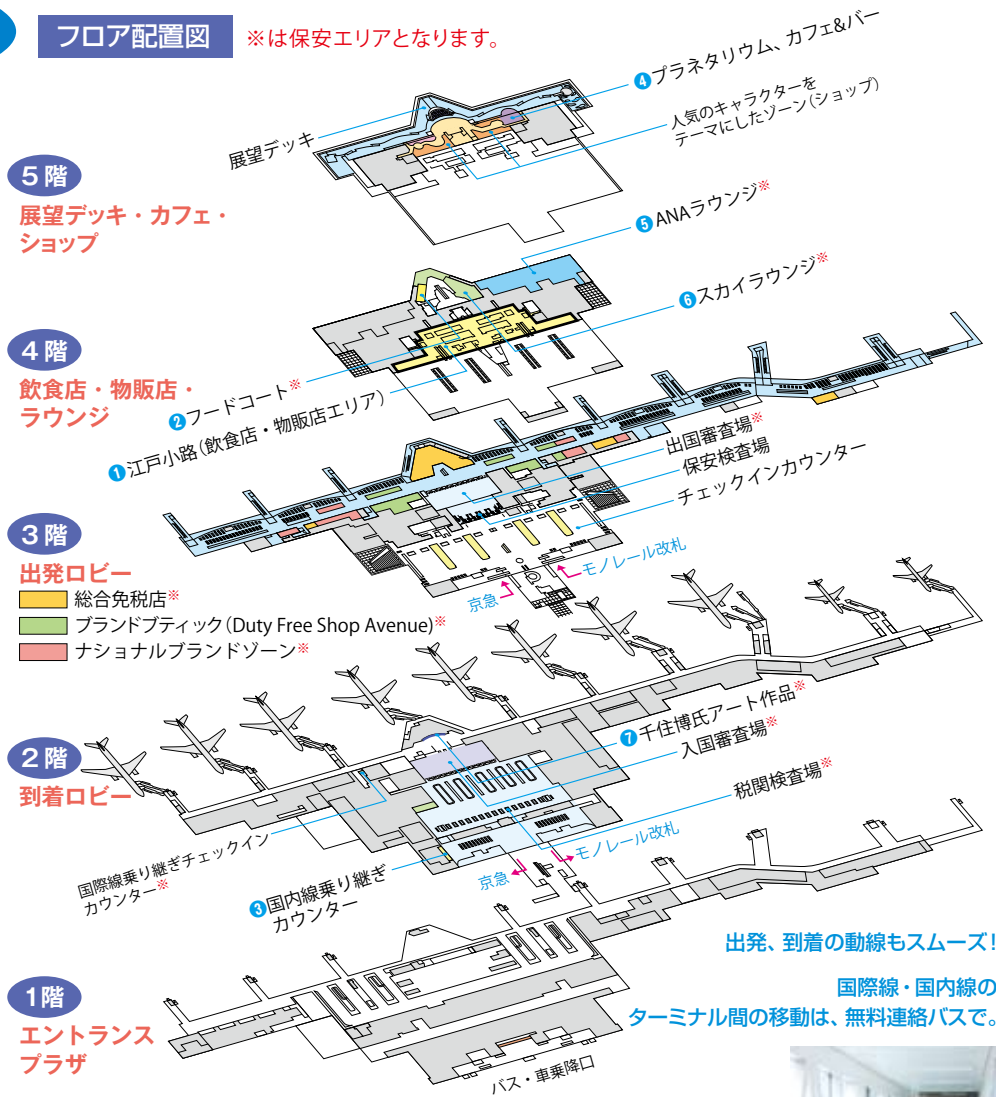
総合免税店※
ブランドブティック(Duty Free Shop Avenue)※
ナショナルブランドゾーン※

2階

到着ロビー

1階

エントランス
プラザ



出発、到着の動線もスムーズ!

国際線・国内線の
ターミナル間の移動は、無料連絡バスで。



京浜急行「羽田空港国際線ターミナル駅」エスカレーター、エレベーターで出発・到着ロビーへ。(地階)



東京モノレール「羽田空港国際線ビル駅」出発ロビー改札(3階)／到着ロビー改札(2階)に。



ボーディングブリッジ※：世界で初めて段差をなくした「ステップレス搭乗橋」が導入されました。



出発ロビー、チェックインカウンター(3階)：出発階は「空」をイメージ。



搭乗ゲート(3階)※



到着コンコース(2階)※：到着階は「大地」をイメージ。

④プラネタリウム、カフェ&バー(イメージ)
(5階)：プラネタリウムを楽しみながらくつろげるカフェ&バーもあります。



⑦千住博氏アート作品「滝」※

水を通して日本の気候風土を表現し、日本の感性を伝える千住博氏のアート作品を展示。海外から訪れるお客様に、日本の自然と文化をアピールする見どころです。(2階)

10月13日 オープン 国内線第2旅客ターミナルが拡張 (本館南側)、大きく便利に!

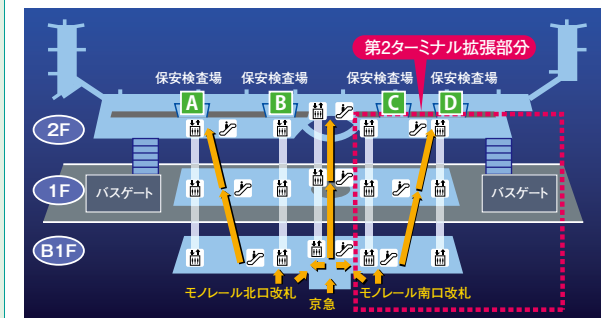
新国際線旅客ターミナルビルの開業に先立ち、国内線第2旅客ターミナル本館南側に出発・到着ロビーなどが拡張され、新たにオープンします。



羽田第2旅客ターミナル拡張部分(右側)

南側搭乗口63～70番、同700～703番(新設)の出発・到着動線が大幅に短縮され、今回オープンする南側出発ロビーに自動チェックイン機、手続きカウンター、保安検査場C・Dが新設されますので、利便性と機能が一層高まります。またANAマイレージクラブ会員でご利用の多いお客様や、プレミアムクラスご利用のお客様には、新たな専用の保安検査場や専用ラウンジをご用意してお待ちしています。

羽田第2旅客ターミナル図



羽田第2旅客ターミナル拡張部分(内部イメージ)



ANA LOUNGE(イメージ)

2010年6月～8月

6月

21日 第65回定時株主総会を開催(詳細は5～6ページ)

30日 運航子会社3社の合併を決議

ANAグループの運航子会社であるエア・ニッポンネットワーク、エア・ネクスト、エア・セントラルの3社は、各社の取締役会で合併を決議しました。

合併形態:エア・ニッポンネットワークが存続会社となり、
エア・ネクスト、エア・セントラルを吸収合併
合併期日:2010年10月1日(予定)

30日 エーゲ航空がスターアライアンスに加盟

ギリシャのアテネを拠点とするエーゲ航空の加盟によりスターアライアンス加盟航空会社は28社になりました。



7月

1日 ANA × GUNDAM SKY PROJECTを開始!

ANAとバンダイ、創通、サンライズは、アニメ「機動戦士ガンダム」の「ガンプラ(ガンダムのプラモデル)発売30周年」を記念して、コラボレーション企画を実施。機体側面に実物大のガンダムをデザインした「ANA×GUNDAM JET」が2011年3月末(予定)まで就航します。



詳しくは www.ana.co.jp/gundam/

©創通・サンライズ

1日 マカオ航空とコードシェアを開始



中国華南地区へのネットワークが拡大し、ご旅行、ご出張がますます便利になりました。

詳細は、[ANA](#) [検索](#) → 「プレスリリース」または →
「ANAわかりやすいニュース配信」でもご覧になれます。

1日 国際線の新しい搭乗スタイル「CLICK check-in」スタート

チェックインから搭乗券印刷まで、ご自宅や会社でお手続きができ、空港ではそのまま保安検査場にお越しいただける新インターネットチェックインサービス「CLICK check-in(クリック・チェックイン)」がスタートしました。

※10月21日からは携帯電話でも同様のサービスCLICKモバイル・チェックインを開始予定。

15日 販売子会社4社の合併を決議

ANAグループの販売子会社であるANAセールス、ANAセールス北海道、ANAセールス九州、ANAセールス沖縄は、各社の臨時取締役会で合併を決議しました。

合併形態:ANAセールスが存続会社となり、ANAセールス北海道、
ANAセールス九州、ANAセールス沖縄を吸収合併
合併期日:2010年10月1日(予定)

20日 世界初、機内で注ぐ「樽生ビール」の提供を開始

ANAはホンザキ電機と共同で航空機内で樽詰の生ビールを注出できるビールディスペンサーの開発に世界で初めて成功(特許出願済)。ANA My Choiceの有料メニューの一つとして国内線機内で生ビールの販売を開始しました。(対象路線、対象便限定)

詳しくは www.ana.co.jp/mychoice



※ビールの銘柄は便により異なります。サービス内容は、予告なく変更となる場合がございます。天候など運航上の理由により提供できない場合がございます。

ANAグループは宮崎県を応援しています!

8月4日 ホームページに「宮崎県応援サイト」展開中!

宮崎県誘客企画「来て!みて!宮崎」と連携して、特産品が当たる宮崎線搭乗キャンペーンや旅行企画、国内線機内で宮崎県産飲料「ゆずはっち」の販売など、ANA宮崎応援キャンペーンを実施しています。

20日 2011年3月期(2010年度)下半期の路線便数計画を発表

概要

国際線:10月から羽田空港発着の定期便を就航し、2011年1月以降、成田空港からはジャカルタ線(再開)、マニラ線(新規)を開設します。下半期の生産量(座席キロ^{※1})は前年同期比119%を予定しています。

国内線:増枠に併せて羽田発着路線を拡充します。一方で、需給環境に応じて大阪・名古屋路線の見直しを行います。下半期の生産量(座席キロ^{※1})は前年同期比103%を予定しています。

下半期路線便数計画

国際線

区分	期日	路線	便数・機種
開設	10/31	羽田—ロサンゼルス 羽田—ホノルル ^{※3} 羽田—バンコク ^{※3} 羽田—シンガポール 羽田—台北(松山)	7便/週、B7-200ER 7便/週、B6-300ER 7便/週、B6-300ER 7便/週、B6-300ER 14便/週、B6-300ER
	2011/2/27	成田—マニラ	7便/週、B6-300ER
再開	2011/1/7	成田—ジャカルタ	7便/週、B6-300ER
増便	10/31	羽田—ソウル(金浦)	14便/週→21便/週、 B7-200ER(14便)、 B6-300ER(7便)
大型化	10/31	羽田—北京 羽田—上海(虹橋) 羽田—香港 成田—上海(浦東)	7便/週、B6-300ER→B7-200ER 7便/週、B6-300ER→B7-200ER 7便/週、夜:B6-300ER→ 昼:B7-300ER 21便/週、B6-300ER(7便)、 A320(7便)、B7-200ER(7便) →B6-300ER(7便)、 B7-200ER(14便)
	10/31	成田—パリ 成田—北京 成田—香港 成田—ホノルル	7便/週、B4-400→B7-300ER 14便/週、A320(7便)、 B6-300ER(7便)→A320(14便) 14便/週、B7-200ER(7便)、 B6-300ER(7便)→B6-300ER(14便) 7便/週、B7-200ER→B6-300ER
減便・小型化	10/31	成田—台北(桃園)	14便/週→7便/週、 B6-300ER(14便)→A320(7便)
減便・機種変更	10/31	成田—瀋陽	7便/週→3便/週、 B3-700→A320
一時運休	10/31	中部—上海(浦東)	7便/週→一時運休

- B7:ボーイング777型機
- B6:ボーイング767型機
- A320:エアバスA320型機
- B4:ボーイング747型機
- B3:ボーイング737型機



ボーイング787型機

貨物:需要の回復、競争環境の変化を念頭に、フレイターの週間運航便数を増加させ、国内・国際を合わせた下半期の生産量(有効貨物トンキロ^{※2})は前年同期比118%を予定しています。

機材:事業規模拡大に対応するために、ボーイング787型機をはじめとした新機材を順次導入します。

※1 座席キロ=座席数×運航距離(キロメートル)
※2 有効貨物トンキロ=有効(搭載可能)貨物重量(トン)×運航距離(キロメートル)

国内線

区分	期日	路線	便数等
再開	10/31	羽田—徳島	3便/日
増便	10/31	羽田—広島 羽田—高松 中部—千歳 中部—仙台 伊丹—福岡	8便/日→9便/日 5便/日→6便/日 8便/日→8便/日 ^{※4} 4便/日→5便/日 7便/日→8便/日 (2011年1/5より9便/日) 9便/日→10便/日 (2011年1/5より12便/日)
	2011/1/5	伊丹—松山 関西—千歳 福岡—千歳 中部—松山	4便/日→5便/日 1便/日→2便/日(2011年1/31まで) 2便/日→3便/日
減便	10/31	羽田—大分	5便/日→4便/日 ^{※5}
休止	2011/1/5	伊丹—大館能代 伊丹—石見 伊丹—佐賀 中部—米子 中部—徳島	1便/日→休止 1便/日→休止 2便/日→休止 1便/日→休止 1便/日→休止
機種変更	10/1 10/31	千歳—利尻 中部—福岡	1便/日、ジェット機→プロップ機 12便/日、ジェット機8+プロップ機4 →ジェット機9+プロップ機3
	2011/1/5	伊丹—大分 中部—大分	2便/日、ジェット機→プロップ機 2便/日、ジェット機→プロップ機

貨物(フレイター運航便)

2010年ウィンターダイヤ(2010年10月31日～)より、成田・関西から上海(浦東)、台北、大連・天津・青島の各路線を増便致します。

※3 ホノルル発羽田行、バンコク発羽田行は2010年10月30日からの運航。
※4 6～10月の季節増便(8便/日)を期間延長(前年比+1便/日)。
※5 ANA運航便は4便/日に減便し、このほかに3便/日をスカイネットアジア航空の運航便とのコードシェアを予定。

(注)これらの計画は関係当局の認可を前提としております。

ちよっぴり旅ぷらす Vol.3 ミュンヘンは住んでみたい街No.1!



2本の塔を持つフラウエン教会(左)と新市庁舎(右) ©GNTB/Cowin Andrew



ノイシュバンシュタイン城

海外旅行がちよっぴり楽しくなる。現地に溶け込んだANA海外支店スタッフならではの街のお薦め情報を株主の皆様にご紹介するコーナーです。今回は7月1日に成田から新路線が就航したミュンヘン(ドイツ)からのレポートです。

ドイツ人が最も住んでみたい街

世界最大のビール祭り「オクトーバーフェスト」(9月18日から10月3日まで開催)で有名なミュンヘンは、ドイツ人の



オクトーバーフェストでビールを運ぶ荷馬車 ©GNTB/BAYERN TOURISMUS Marketing GmbH

住んでみたい街No.1だそうです。緑豊かで古い建造物がたくさん残っている美しい街並みがあること、晴れの日が多く気候が良いこと、そして周辺に観光地やスキーリゾートも多く充実した余暇が楽しめること、などが人気の秘密です。

アウトバーンを楽しんではいかが

ミュンヘンを州都とするバイエルン州は自動車産業の拠点です。アウトバーンでは速度無制限の区域があり、時速150kmで飛ばしていても、猛スピードで追い越す車があり、時速200km以上は出ているでしょう。実際にボルシェやBMWが文字通りエンジン全開で“伸び伸び”と走っています。荷物が多いときは空港から街中までタクシーやレンタカーを利用してアウトバーン体験はいかがでしょう。

アウトバーンを使って足を延ばせば、サウンドオブミュージックのザルツブルクやディズニールンドのシンデレラ城のモデルとなったノイシュバンシュタイン城も1時間半程度です。で、車はとても便利で快適です。



アウトバーン

見どころたくさんのミュンヘン市内

もちろんミュンヘン市内にもたくさんの見どころがあります。レジデンツや新市庁舎など、荘厳な石造りの建物は圧巻ですし、美術館も大変充実しており、1週間かけても見て回り切れないほどです。

お薦めは、Englischer Garten(英国庭園)。広大な庭園は、天気の良い日にはミュンヘンっ子の憩いの場所となり、思い思いの姿でリラックスしています。中には日本だと警察に連行されるだろうと思うほど?リラックスした姿の人もいたりして、ドイツを感じられるスポットです。



ドイツ人の主食はビールとジャガイモ?

ドイツ人の主食はビールとジャガイモだと聞いてはいましたが、彼らは本当に1年中ビールと一緒にフライドポテトやジャガイモサラダを食べています。ビタミンと炭水化物をすべてビールとジャガイモから摂取しているのではないかと思います。それだけにビールのうまさは格別で、ミュンヘンではぜひ名物のヴァイツェン(白ビール)をお試しください。

タンパク源は豚肉。有名なソーセージのほか、日本人の口に合いそうなものは、シュニッツェル(ドイツ風豚カツ)とシュヴァイネハクセ(巨大な骨付き肉で駐在員たちは「ギヤートルズの肉」と呼んで食べています)でしょうか。また、街にあるマルクト(市場)の代表格であるマリエン広場近くのピクトゥアリエンマルクトを訪れると、ビール、ジャガ



シュヴァイネハクセ

イモ、ソーセージだけではない、ドイツの食生活の豊かさが分かります。



ピクトゥアリエンマルクト

意外にも?ミュンヘンは英語が通じません。「ドイツ人の多くは英語もできるのでは」という先入観を見事に打ち破ってくれました。私の感覚では英会話力は日本人並みではないでしょうか。そのため、こちらから一生懸命、つたない英語やドイツ語で話すと、相手も親近感を持ってくれるので、コミュニケーションできたときの喜びを味わうことができます。まずは、アイン・ツヴァイ・ドライ!

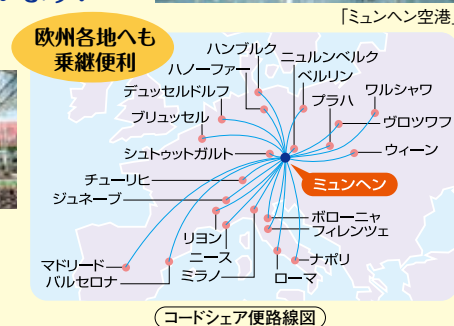


ANAフランクフルト支店
ミュンヘン駐在
営業マネジャー 藤居 鉄馬

成田からミュンヘンへは 毎日運航しています!



「ミュンヘン空港の広場」



コードシェア便路線図

運航ダイヤ

	成田	ミュンヘン
NH207	11:50	→ 17:00
NH6007*	12:25	→ 17:35
	ミュンヘン	成田
NH208	20:55	→ 翌日15:25
NH6008*	15:45	→ 翌日10:25

※フルトハンザドイツ航空の機材および乗務員で運航するコードシェア便です。

ANAミュンヘンポータルサイトで魅力あるミュンヘンの情報を発信中!
<http://www.ana.co.jp/munich> ANAミュンヘン 検索

株主メモ

■ 事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日
■ 定時株主総会	毎年4月1日から3カ月以内に開催
■ 基準日	定時株主総会権利行使確定日 毎年3月31日 期末配当金受領確定日 毎年3月31日 ※中間配当金制度は採用していません。 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日 株主優待券割当確定日 毎年3月31日および9月30日
■ 単元株式数	1,000株
■ 公告の方法	当社のホームページに掲載します。 ANA投資家情報 検索 ただし、電子公告によることができない事故、その他やむを得ない事由が生じたときは日本経済新聞に掲載します。
■ 証券コード	9202

【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会は、口座のある証券会社あてにお願いいたします。
証券会社に口座を開設されていない株主様は、下記の電話照会先にご連絡ください。

■ 株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
■ 株主名簿管理人 事務取扱場所	東京都中央区八重洲二丁目3番1号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
■ 郵便物送付先	〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部
■ 電話照会先(通話料無料)	03-0120-176-417 (平日9:00～17:00/土・日・祝休み)
■ ホームページ	住友信託銀行証券代行部 検索

株主インフォメーション

● 株主特別優待券、ANAグループ優待券の送付について

9月末1,000株以上ご所有の株主様には11月下旬に送付予定です。

● ANA VISION(第61期 第2四半期のご報告)の送付について

9月末1,000株以上の株主様には2011年版カレンダーに同封の上、12月初旬に順次送付予定です。

9月末1,000株未満の株主様には12月初旬に送付予定です。

● 2011年版 ANAカレンダー「Welcome Aboard(ウェルカム アボード)」※の送付について

9月末1,000株以上ご所有の株主様に12月初旬より順次、日本郵便『ゆうメール』でご登録ご住所あてに送付予定です。※国内、海外の風景写真カレンダー(サイズ たて75.3cm×よこ39cm 表紙+本文12枚)

なお「送付不要」の株主様は大変お手数ですが、9月末までに下記のANA総務部株式担当までご連絡をお願い申し上げます。(本年8月末時点で、すでにご連絡をいただいている株主様はご連絡不要です)

表紙写真紹介-空から見た世界遺産

1738年、農婦がもらったキリストの木像が涙を流したという奇跡に由来して建てられた教会。
ロココ装飾でできらびやかな内装は必見です。1983年に世界文化遺産に登録されました。



ANAハローツアアで世界遺産を楽しむ。
<http://www.ana.co.jp/inttour>

[ハローツアア](#) [検索](#)

全日本空輸株式会社 ホームページ <http://www.ana.co.jp/ir> [ANA投資家情報](#) [検索](#)

〒105-7133 東京都港区東新橋一丁目5番2号 汐留シティセンター

総務部 株式担当 電話03-6735-1001〔受付時間 平日9:00～12:00/13:00～17:00/土・日・祝休み〕

本冊子は環境に配慮した
用紙、インクを使用しています。

